

ごあいさつ

長野マスタース陸上競技連盟

理事長 山岡 清孝

平成29年度から理事長を仰せつかっている山岡清孝です。長野マスタース発展のため、微力ながら精一杯取り組んでいきたいと思っております。よろしくお願い申し上げます。

今年度は皆さまのご協力により、「全会員陸連登録」という当連盟にとって大きな改革がなされました。その方策等については、山田会長が会報第35号でお伝えしたところですが、その経緯について昨年12/23に日マ連合の会議で次のような説明を受けてきました。

- ① 1993年世界ベテランズ宮崎大会開催にあたり、前年(1992)日本陸連の協力を得るため「日マ連合会員全員の陸連登録」を約束し、理事会において全員陸連登録を決定した。
- ② 2005年日マ連合が社団法人化するにあたり、文科省(監督官庁)から日本陸連の推薦を求められたため、「日マ連合事務局を東京に設置」「陸連登録の積極的推進」等を約束して陸連推薦をとりつけた。(ここまで13年間、ここから12年間先送り・・・)
- ③ 2017年日本陸連は日マ連合が約束を果たさないことから、全国競技運営者会議において都道府県陸協に対し年度内の進展を要請している。

すでに東海選手権をはじめ、いくつかの県では陸連登録者でないと大会参加できなくなっています。「全員陸連登録までには2~3年かかる」という県がある中、本年1月に開催された評議員会の決定を受けて迅速に対処していただいた支部事務局の皆さま、ご理解いただいた支部事務局の皆さま、ありがとうございます。なお、団体登録料や陸協会報配布等の経費が発生してきます。こちらへのご理解もよろしくお願い致します。



さて、今年度は長野マスタース陸上競技連盟創立30周年の年であり、記念大会や記念式典・祝賀会の開催、記念誌の発行などの行事を予定しています。なかでも記念大会においては選手権大会の他に「3kmロードレース大会」を開催します。マスタース会員はもちろんのこと、会員以外の皆さまにも大勢参加していただくためにコースを工夫し開催時刻や制限時間を決めました。支部の皆さんやランニングのお仲間を誘い合っご参加ください。

理事長を承って一年経ちましたが慣れないことの連続です。今後とも皆さまのご指導とご協力をお願い申し上げます。

30周年記念式典・祝賀会のお知らせ

本マスタース陸上競技連盟が創立30周年を迎えます。その記念式典・祝賀会を下記のように開催いたします。

- 1 日時・会場
11月24日(土) 13時~15時
ホテルモンターニュ松本
松本駅アルブスロ(西口)徒歩1分
- 2 会費
7,000円

※ 参加については各支部事務局担当者が取りまとめます。

平成29年度 評議員会議事録

連盟名 長野マスターズ陸上競技連盟
会議名 平成29年度 評議員会
日時 平成30年1月20日(土) 13:00~16:00
場所 長野市 中央館清水屋旅館
出席者 評議員14名(委任状2名 定足数9名以上で会議成立)
理事17名 専門委員4名 支部長2名 合計37名
議長 山村俊一評議員(中信地区)
議事

第1号議案 平成29年度事業報告・収支決算報告

① 事業報告

別記掲載

② 収支決算報告

一般会計決算報告では会計年度内に2回の全国駅伝派遣(3月、11月)と、30周年記念事業への拠出金が重なり、およそ40万円の臨時出費が発生したため、例年、特別会計へ組み入れている長野市大会の余剰金を一般会計に組み入れ、翌年度への繰越金75.1万円(昨年度96.6万円)を確保した。

特別会計では30周年記念事業準備金として5万円が支出され、残高198.4万円(昨年度末残高203.4万円)とした。以上、一般会計、特別会計共に承認された。

第2号議案 平成30年度事業計画案について

ア 第29回長野マスターズ陸上競技選手権大会(創立30周年記念事業)開催案

上條競技委員長の要項案を細部にわたり審議し、30周年記念事業の一環として地区対抗の年代別リレーを盛り込むなど特色を出した大会案を承認した。また、例年6月中旬開催であったが日本選手権混成など県内で大きな大会が重なり、7月15日開催となった。

イ 第21回長野マスターズ陸上 長野市大会 開催案

昨年のフィールド種目(特に参加者の多い投擲)の試技回数6回による競技終了遅延について審議し、次回は審判員の負担軽減と大会運営の円滑化を図って試技回数を4回とすることを決定した。

第3号議案 平成30年度予算案について

① 来年度への繰越金減少と30周年記念事業支出、並びに長野市大会運営方法変更により来年度の予算組みが厳しいことから、例年通りの事業計画の事業計画案1に連動した予算案1と事業案を見直した事業計画案2とその予算案2について事業案、予算案が同時に審議された。

② 事業案1と予算案1の説明

長野市大会を役員主導で大会運営を行い、その収益を従来通り各事業に充て例年並みの事業を行う。

③ 事業案2と予算案2の説明

理事会での会長意見で「長野市大会の運営から手を引き、長野市陸協に全面的に委託したい」という要望に応え、その委託金を県縦断駅伝と重なる全日本M対抗駅伝を一時中断することで駅伝派遣費と相殺する。

- ④ 駅伝事業について「一旦、中断すると予算が取りにくいので駅伝は継続して頂きたい」という会長の意見もあり事業案1、予算案1が可決された。
- ⑤ 長野市大会は昨年までのながの観光コンベンションビューロからの支援金は期待せず、役員の積極的参画を得て連盟主導の下に長野市陸協の協力を仰いで良い競技会とすることを確認した。

第4号議案 陸連（JAAF）全員登録について

ア 陸連（JAAF）全員登録の経緯説明と連盟の方針

山岡理事長よりこれまでの陸連とマスターズ連合との登録問題の経過報告があり、今後の連盟の方針が説明された。

これに対して、多くの質問、意見が出されたが、高橋副会長の「マスターズといえども陸協の協力を得て趣味を実現しているのだから感謝の気持ちを持って受益者負担は当然だ」という意見に多くの賛同を得て、本県も今年度より日本連合、東海Mの動きに足並みを揃えてJAAF全員登録（陸協登録）を義務化することが承認された。

イ 平成30年度登録方法の説明

大日向総務委員長よりJAAF ID検索方法など登録方法の詳細について説明があった。

第5号議案 創立30周年記念事業計画について

各事業案について山岡総務部会長より概要報告と各部会長より進捗状況の説明があった。

- ① 記念大会部会 矢澤部会長
選手権で地区対抗親睦リレーを行う。記念ロードレースについては委員会で検討中
- ② 式典祝賀会部会 大日向部会長
会場は松本市で打診中であるが今後、予算をみて会場選定を行いたい。
- ③ 記念誌部会 高橋部会長
今後の部会会議の中で顧問の意見も伺いながら具体的に進めていきたい。
- ④ 総務部会 百瀬副部会長
記念Tシャツはデザイン公募で注文販売の方向で進めていきたい。
- ⑤ 総額150万円の予算について山岡総務部会長より収支案の報告があった。
事業案、予算案ともに承認された。

第6号議案 規約改正について

- ① 連盟の事務所を所在地に変更
- ② 陸連全員登録に伴い、連盟規約第5条第1項会員の条件として「日本陸連登録者であること」を追記する。

連絡事項

- ① 東海M選手権の長野県開催が平成31年度に予定されていたが、平成32年開催の三重Mより開催年度を交代してほしいという申し入れがあり、平成32年東海M選手権は長野県開催となった。
- ② 支部長交代 佐久支部長が高橋泰充さんから森憲之さんへ代わる。

研 修 会 講師 飯塚義博氏（上伊那支部M60） 演題『歩くはすごい！競歩長野』15：30～16：00
高校時代から日本選手権優勝、アジア大会出場までのエピソードと荒井広宙さんをはじめ、なぜ長野県の競歩は強いのかをお話いただきました。

平成30年1月20日 議事録 署名人 百瀬晶文 ㊞

平成29年度 事業報告

専務理事 百瀬 晶文

今年度は山田会長以下、平成29・30年度新役員による新組織でのスタートとなり、副会長はじめ専門委員まで若手役員が多く誕生して組織の若返りを図りました。

まず、ビッグニュースとして3月下旬に韓国の大邱で行われた世界室内選手権で大日向暁子選手がW65三段跳の室内世界新記録を樹立し、4月には松本市長、5月には中島副知事への表敬訪問が実現しました。この快挙に連動して多くのマスコミ取材と、ABNスポーツ大賞受賞もあり、大日向副会長の活躍でマスターズ陸上の県内認知度も上がりました。また、大邱ではほかにも県内選手3名がメダリストとなり、世界を舞台に活躍されました。

6月の第28回県選手権では初の試みとして従来の大会役員に加え、理事、評議員、専門委員、支部長が大会サポート要員として参集し、大会史上最多の264名（県内156名、県外108名）を集めたメイン大会を陰で支えました。記録面では日本新記録1、県新記録6、大会新記録多数の好記録が誕生しています。またこの日、永年、連盟の発展にご尽力された白鳥前会長に功労賞の感謝状と記念品が贈られ、併せて昨年度、日本新記録を樹立した8名の選手に日本記録記念章が授与されました。

来年度の創立30周年記念事業に向けて山岡理事長を中心に実行委員会が組織され、総務、式典・祝賀会、記念大会、記念誌の4部会による各事業計画が始動しました。

10月に入ると全日本駅伝が滋賀県で開催され、本県の男子駅伝チームは昨年度（3月）に続き、準優勝を納め、駅伝王国長野の面目躍如となりました。

また、第20回記念長野市大会も昨年を上回る大会史上最高数の223名が参加し、日本新記録1、県新記録12の充実した記録会となりました。更に大会前日には秋季実技研修会が実施され、県内外の選手による走、跳、投の研鑽も行われました。

10月下旬には国際・第38回全日本選手権がマスターズ陸上発祥の地、和歌山の紀三井寺陸上競技場で開催され、本県からも男子18名、女子8名が参加し、3日目（最終日）は台風22号の直撃を受けて朝から競技中止となったにも関わらず、優勝5種目、2位7種目、3位6種目と長野県選手の活躍が見られました。

登録会員数は逐年増加が見られましたが、本年度も300名の大台を超えたものの319名（昨年度328名：最多）とほぼ横ばいになっています。武井壮選手などの活躍で全国的にもマスターズ陸上へ関心が高まる中、当連盟でも「アスリートファースト」の観点に立ち、今後もさらに魅力ある競技運営、魅力ある組織運営に尽力していきたいと考えております。すべては会員の皆様方、後援団体様ならびに長野陸上競技協会様からのご支援、ご協力によるものと感謝し、御礼申し上げます。

- ① 講習会、練習会、実技指導、懇親会、研修会の開催
- ② 長野マスターズ陸上競技選手権大会及び長野市大会の開催
- ③ 都道府県対抗全日本マスターズ駅伝等の代表選考と派遣
- ④ 各種大会への積極的参加と協力
- ⑤ 公認記録申請
- ⑥ 会報発行（35号）、HP運営等の広報活動
- ⑦ 諸記録記念章、日本3傑賞等、顕彰の贈呈
- ⑧ 諸会議の開催
- ⑨ 会員増強、支部活動活性化及び財政の確立
- ⑩ 創立30周年記念事業の準備

	行事・大会名称	月/日	備考
1	平成29年度登録	通 年	各支部→西澤総務委員
2	会報発行(35号)	年1回	広報委員会
3	賛助・協賛会員募集	通 年	協賛金 プログラム広告
4	第16回東海マスターズ選手権大会	5/21 (日)	静岡県 エコパスタジアム
5	第28回長野マスターズ選手権大会、表彰式	6/18 (日)	松本平広域公園陸上競技場
6	創立30周年記念事業の計画	通 年	準備委員会、部会設立
7	第30回都道府県対抗全日本マスターズ駅伝大会	10/1 (日)	滋賀県 希望ヶ丘文化公園
8	2017 秋季実技研修会	10/7 (土)	長野市営陸上競技場サブトラック
9	第20回記念 長野マスターズ長野市大会	10/8 (日)	長野市営陸上競技場
10	第38回全日本マスターズ選手権大会	10/27～10/29	和歌山県 紀三井寺
11	理事会	12/16 (土)	長野市 中央館清水屋旅館
12	日本新記録等の申請	通 年	記録委員会
13	評議員会	1/20 (土)	長野市 中央館清水屋旅館
14	研修会	1/20 (土)	長野市 中央館清水屋旅館
15	春季練習会・講習会	H30/3/21 (祝)	松本市岡田 ウォーターフィールド*

[広報委員会]

5月31日会報第35号を発行。山田新会長、白鳥前会長、高橋、鶴見両前副会長の挨拶を中心に皆様のお力添えで発行。ホームページは手塚委員が大会の要項、結果等を迅速に更新して下さい

黒岩 邦義 委員長

っております。原稿の依頼等お願いすることがあるかと思ひます。ご協力宜しくお願いいたします。

[競技・記録委員会]

競技・記録委員として、多数の業務を任せてもらい、色々な失敗からの勉強、知識の向上があったと感じられます。特に役員会議や競技規則に関しては、大きな課題になる事もあり、知識の向上としては良い経験ができたと感じられます。また、本来の競技・記録委員の業務を知る年だったと感じられます。及び、競技・記録委員の詳細な組織の構築を進める必要があると感じられました。来年度は、本年度の経験から、

上條 健 委員長

本来の競技・記録委員の業務を中心に進めていき、県マスターズの大会関係・記録集計関係、マスターズ長野市大会の記録集計関係、全国マスターズ記録集計関係のみの業務を中心にできる限り力を注ぎたいと考えます。また、来年度の競技・記録委員の詳細な組織構築を進めていきたいと考えます。30周年記念大会を控えて、大会運営にも少しずつ知識を広げ、業務に携わりたいと考えています。

[登録担当]

大日向暁子 総務委員長

第1次～5次登録者319人 内新規登録者29人(前年度45人)

平成27～29年度支部別登録状況

(単位;人)

支部	27年度	28年度	29年度
飯山	10	8	11
中野・須坂	23	25	22
長野市	49	55	53
千曲	5	7	7
上田	31	38	39
佐久	46	50	41
安曇平	33	38	38
松本	29	29	25
塩尻・木曾	16	16	14
諏訪	22	22	26
上伊那	29	32	28
飯田・下伊那	13	16	15
計	306	336	319

【所感】

29年度の登録会員数は前年度に比べると微減でした。また、累計会員数は986人、よって登録率は32%であり、新規登録の促進や継続が望まれるところです。初期に登録された方々はすでにご高齢、諸事情等で更新は無理かと思ひますが、会員の皆様には益々自己管理に留意されるとともに、意欲のある方々への声かけなど登録の勧誘にもご協力をお願いしたいと思います。

[ロード・駅伝委員会]

佐藤 悦夫 委員長

第30回都道府県対抗全日本マスターズ駅伝大会は10月1日に滋賀県野洲市希望が丘公園陸上競技場特設コースで開催されました。当初は年が変わった3月に行う予定でしたが、会場の都合により急遽10月になり、例年ですと松本で駅伝委員が集まり選手選考会議を開く予定でしたが急なため電話やメールのやり取りで行いました。しかし10月1日は第1回松本マラソン開催日で候補選手の中にはすでに参加申込を済ませた選手

がおり、メンバー選考に苦労しました。女子の部は選手が集まらず今回は断念しました。男子の部とエルダーの部は何とか選手が集まり、補員・スタッフ総勢16名で参加しました。結果は男子の部が愛知県に次いで準優勝、エルダーの部は10位でした。次回31回大会は愛知県で開催される予定と聞いていますので日程が決まり次第、早めの準備をしていきたいと思えます。

[事務局]

百瀬 晶文 事務局長

初めての膨大な業務に翻弄されつつも皆様のサポートを得て事務局の業務を遂行しております。

・各種会議の準備、開催・全日本M選手権参加の取りまとめ・世界記録、日本記録の表彰準備・日本3傑賞の及び功労賞の作成→送付・日本連

合、東海連盟及び県陸協との連携事務・会計処理・長野陸上競技協会、東海マスターズ連盟及び日本マスターズ連合との折衝・一般問い合わせ窓口・マスコミ対応・連盟特殊投擲用具の管理・支部対応・協賛、後援団体との折衝、大会報告

本年度の主要競技会結果

2017大邱 世界マスターズ室内陸上競技選手権大会 (WMACi 2017)

韓国大邱広域市 韓国陸上振興センター

2017年3月19～25日

大日向暁子	W65	三段跳	9m86	世界新	決勝	1位
西澤 香	W45	三段跳	10m06		決勝	3位
	W45	800R Japan	2分20秒27		決勝	2位
矢澤 恵一	M40	60m	7秒89		準決勝	14位
	M40	200m	24秒91		準決勝	8位
	M40	800R Japan	1分37秒27		決勝	2位
百瀬 晶文	M55	走高跳	1m60		決勝	3位
黒岩 邦義	M65	60m	10秒46		予選	22位
	M65	60mH	11秒57		決勝	4位

ワールドマスターズゲーム

ニュージーランド・オークランド

4月21～30日

矢澤美代子	W65	1500mW	9`15.75		2位
	W65	3000mW	18`59.29		2位
	W65	5000mW	31`55.44		2位

第30回 都道府県対抗全日本マスターズ駅伝競走大会

滋賀県希望が丘文化公園

10月1日

男子の部

長野県 準優勝 1時間42分05秒

1区：小林 正典 2区：徳武雄次郎 3区：小口 秀哉

4区：利根川裕雄 5区：上島 通成 6区：鈴木 昌幸

エルダーの部

長野県 10位 1時間07分38秒

1区：友野 優子 2区：佐藤 悦夫 3区：竹入 平治 4区：岡部 悦子 5区：菊池 利治

第6回 全日本マスターズロードレース大会

滋賀県希望が丘文化公園

10月1日

白井 隆之 マスターズ男子5km M45 17分24秒 1位

三浦 正司 マスターズ男子5km M65 21分36秒 2位

矢澤美代子 マスターズ女子3km W65 16分16秒 1位

国際・第38回全日本マスターズ陸上競技選手権大会

和歌山県 紀三井寺公園陸上競技場

10月27～29日 (29日は台風22号接近に伴い競技中止)

入賞者

NR：日本新記録

性別	クラス	種目	記録	風速	順位	氏名	年齢
男子	M35	5000m	15分39秒09		2	大村 一	38
	M35	5000m	17分09秒96		6	小林 豊	37
	M40	5000m	17分48秒45		2	中村 賢太郎	43
	M40	4×100mR	49秒21		6	矢澤 恵一	41
						宮澤 憲二	43
						宮原 清司	48
						上條 健	47
	M45	立五段跳	13m08		6	宮原 清司	48
	M45	立五段跳	12m77		8	上條 健	47
	M45	ハンマー投	27m39		4	上條 健	47
	M55	走高跳	1m50		2	百瀬 晶文	56
	M55	走高跳	1m50		3	岩元 義和	56
	M55	立五段跳	13m47		3	岩元 義和	56
	M55	ハンマー投	34m80		3	斉藤 和彦	56
	M60	走高跳	1m40		3	宮本 吉豊	62
	M65	100m	13秒22	0.9	1	高橋 政幸	67
	M65	100mH	15秒78	0.2	1	高橋 政幸	67
	M70	100m	14秒17	1	4	天沼 昭彦	73
	M75	円盤投	29m47		2	山田 榮一郎	77
	M75	ハンマー投	36m63		3	山田 榮一郎	77
女子	W35	100m	13秒06	-1.1	1	熊谷 香織	37
	W50	走幅跳	4m31	1.6	2	西澤 香	50
	W65	走幅跳	3m75	0.2	2	大日向 暁子	67
	W65	立五段跳	11m64 NR		1	大日向 暁子	67
	W70	砲丸投	7m23		1	市川 節子	73
	W70	円盤投	17m08		2	市川 節子	73
	W75	100m	21秒27	1.2	6	鶴見 文子	78
	W75	走幅跳	2m36	-0.2	3	鶴見 文子	78

平成30年度事業計画

1. 会員の増加を図るとともに県内競技会を充実し、より多くの県外選手を招き財務の健全化と活動の拡大を推進する。
2. JAAF登録義務化に伴い積極的に県陸協との連携を深め、会員の中から公認審判員資格取得者を増やすなど競技会運営能力の向上を図る。
3. 事務局と各専門委員会の連携を密にし、有機的組織づくりを図る。
4. 会員の全日本選手権や県外競技会へより多く参加するよう啓発に努める。
5. 創立30周年記念事業を各部会長が中心となり委員の協力のもとに実施する

	行事・大会名称	月 日	備 考
1	平成30年度登録 (M連合登録、JAAF登録)	通 年	各支部→西澤総務委員
2	会報発行 (36号、37号)	年 2回	広報委員
3	賛助・協賛会員募集	通 年	協賛金 プログラムへの広告
4	第17回東海マスタース 陸上競技選手権大会	5/20 (日)	愛知県 ウェブスタジアム刈谷
5	第29回長野マスタース 陸上競技選手権大会	7/15 (日)	松本平広域公園陸上競技場
6	創立30周年記念事業 (記念大会、式典、記念誌)	通 年	各部会
7	第39回全日本マスタース 陸上競技選手権大会	9/22(土)～24(月)	鳥取県 コア・コアウェストパーク陸上競技場
8	2018秋季実技研修会	10/6 (土)	長野市営陸上競技場サブトラック
9	第21回長野マスタース 陸上競技 長野市大会	10/7 (日)	長野市営陸上競技場
10	第31回都道府県対抗全日本マスタース 駅伝競走大会	11/18 (日)	愛知県 長久手市
11	理事会	12/15 (土)	松本市
12	日本新記録等の申請	通 年	記録委員
13	評議員会	H31.1/19 (土)	松本市
14	研修会 (講話)	H31.1/19 (土)	松本市
15	2019春季実技研修会・合同練習会	H31.3/21 (木)	松本市岡田ウォーターフィールド*

東海地区 各県選手権開催予定日

愛知M選手権	5/20 (兼東海M選手権)	ウェブスタジアム刈谷陸上競技場
静岡M選手権	10/21	草薙陸上競技場
岐阜M選手権	5/27	多治見市 星ヶ台陸上競技場
三重M選手権	5/13	伊勢陸上競技場

- ・ 2018年ワールドマスタース陸上選手権 9/4～16 スペイン、マラガ
- ・ アジアパシフィックマスタースゲーム2018ペナン 9/7～15 マレーシア

第29回長野マスターズ陸上競技選手権大会要項 兼 長野マスターズ陸上競技連盟 創立30周年記念事業

主催 長野マスターズ陸上競技連盟
 共催 信濃毎日新聞社 ・ (公財)信毎文化事業財団
 後援 長野県教育委員会 ・ SBC信越放送
 主管 (一財)長野陸上競技協会
 日時 平成30年7月15日(日) 午前9時30分競技開始予定
 会場 県松本平広域公園陸上競技場 (〒390-1243 松本市神林5300 TEL0263-57-0444)

競技種目 『日本陸連公認大会』
 (男子) 60m 100m 200m 400m 800m 1500m 3000m 5000m
 80mH(M70～) 100mH(M50～65) 110mH(～M45) 3000mW
 走高跳 棒高跳 走幅跳 三段跳 立五段跳 ※ 30周年記念種目
 砲丸投 円盤投 ハンマー投 やり投 (21種目)
 (女子) 60m 100m 200m 400m 800m 1500m 3000m
 80mH(W40～) 100mH(～W35) 3000mW
 走高跳 棒高跳 走幅跳 三段跳 立五段跳 ※ 30周年記念種目
 砲丸投 円盤投 ハンマー投 やり投 (19種目)
 (リレー) 4×100mR(地区親睦リレー) ※ 30周年記念種目 (1種目)

競技規則 2018年度(公財)日本陸上競技連盟競技規則、(公社)日本マスターズ陸上競技連合競技規則及び本大会要項により実施する。

参加資格 2018年度(公社)日本マスターズ陸上競技連合登録者で、かつ2018年度(公財)日本陸上競技連盟の登録者に限る。大会当日(7/15)の満年齢が18歳以上(学連登録者除く)で、5歳毎の年齢クラスとする。

参加制限 1人3種目。個人種目にリレーは含めない。(リレーは無料、個人種目申し込み者に限る)
 ※併催の県実業団選手権に出場する種目への申し込みはできない。

参加料 1種目=2,000円 2種目=3,000円 3種目=4,000円

申込方法 ①県内者 所属する支部事務局へ「長野マスターズ陸上競技連盟Web Site」にある申込書様式で、6月11日(月)必着とし、参加料を添えて申し込む。

②県外者 「長野マスターズ陸上競技連盟Web Site」にある申込書様式で申し込みをし、参加料は下記指定「ゆうちょ銀行」へ手続きをする。ともに6月15日(金)必着とする。
 尚、申し込みは5月15日(火)から受付を開始する。

(郵送先) 〒399-0703 塩尻市広丘高出690-7 (有)ライフメッセージ内 上條健宛
 電話番号 0263-53-8869(平日9～17時) 携帯電話 090-3093-7555

(振込先) ゆうちょ銀行口座 00590-0-102100
 加入者名 長野マスターズ陸上競技連盟大会申込係

表彰 ナンバーカード 賞状は、全員に授与する。また、優勝者へは選手権章(メダル)を授与する。
 参加選手は、所持するナンバーカード(県番号+登録番号)を使用する。
 尚、新たに登録した県内登録者には、当日、受付にてナンバーカードを配布する。

受付 その他 大会当日、午前8時より競技場玄関ホールにて行う。
 ①事前に健康診断を受けるなど、自己の健康には充分留意し参加する事。
 ②競技中に発生した傷害に対し主催者は応急処置するが一切責任を負わないものとする。
 ③全天候用スパイクピンを使用し、長さは9mm以下(走高跳、やり投は12mm以下)とする。
 ④3000m(男子20分・女子25分)、5000m(男子25分)、3000mW(男子30分・女子35分)の制限時間を設ける。制限時間を超えた場合は新たな周回に入れない。
 ⑤納入された参加料は、理由の如何に関わらず返金しない。
 ⑥メダル、賞状は必ず持ち帰ること。残されたメダル、賞状は原則として送付しない。
 ⑦棒高跳ポールは、自己のポールを持参し使用する事。(競技場宛での送付も可)
 ⑧競技日程は、一週間前までに「長野マスターズ陸上競技連盟HP」に掲載する。
 ⑨申し込みは、規定の申込方法以外は一切認めない。
 ⑩個人情報については、大会運営に必要なことのみを使用目的とする。

第21回長野マスターズ陸上競技長野市大会要項

主催	長野マスターズ陸上競技連盟
共催	信濃毎日新聞社・(公財)信毎文化事業財団
主管	長野市陸上競技協会
日時	平成30年10月 7日(日) 午前9時30より競技開始
会場	長野市営陸上競技場 〒381-0038 長野市東和田632 電話026-244-0111
競技種目	『日本陸連公認大会』
(男子)	60m 100m 200m 400m 800m 1500m 3000m 5000m 80mH(M70～) 100mH(M50～65) 110mH(～M45) 3000mW 走高跳 棒高跳 走幅跳 三段跳 砲丸投 円盤投 ハンマー投 やり投 (20種目)
(女子)	60m 100m 200m 400m 800m 1500m 3000m 80mH(W40～) 100mH(～W35) 3000mW 走高跳 棒高跳 走幅跳 三段跳 砲丸投 円盤投 ハンマー投 やり投 (18種目)
(混成競技)	五種競技(男子のみ) (1種目)
競技規則	2018年度(公財)日本陸上競技連盟競技規則、(公社)日本マスターズ陸上競技連合競技規則及び本大会要項により実施する。
参加資格	2018年度(公社)日本マスターズ陸上競技連合登録者で、かつ2018年度(公財)日本陸上競技連盟の登録者に限る。大会当日(10/7)の満年齢が18歳以上(学連登録者除く)で、5歳毎の年齢クラスとする。
参加制限	1人3種目。個人種目にリレーは含めない。(リレーは無料、個人種目申し込み者に限る) ※併催の県実業団選手権に出場する種目への申し込みはできない。
参加料	1種目＝2,000円 2種目＝3,000円 3種目＝4,000円 五種競技＝5,000円(他種目参加の場合は、五種競技を基準に他種目分を加算する)
申込方法	①県内者 所属する支部事務局へ「長野マスターズ陸上競技連盟Web Site」にある申込書様式で、9月4日(火)必着とし、参加料を添えて申し込む。 ②県外者 「長野マスターズ陸上競技連盟Web Site」にある申込書様式で申し込みをし、参加料は下記指定「ゆうちょ銀行」へ手続きをする。ともに9月7日(金)必着とする。 <u>尚、申し込みは8月15日(水)から受付を開始する。</u> (郵送先) 〒399-0703 塩尻市広丘高出690-7 (有ライフメッセージ内 上條健宛 電話番号 0263-53-8869(平日9～17時) 携帯電話 090-3093-7555 (振込先) ゆうちょ銀行口座 00590-0-102100 加入者名 長野マスターズ陸上競技連盟大会申込係
表彰	賞状は、全員に授与する。
ナンバーカード	参加選手は、所持するナンバーカード(県番号+登録番号)を使用する。 尚、新たに登録した県内登録者には、当日、受付にてナンバーカードを配布する。
受付その他	大会当日、午前8時より競技場玄関ホールにて行う。 ①事前に健康診断を受けるなど、自己の健康には充分留意し参加する事。 ②競技中に発生した傷害に対し主催者は応急処置するが一切責任を負わないものとする。 ③全天候用スパイクピンを使用し、長さは9mm以下(走高跳、やり投は12mm以下)とする。 ④3000m(男子20分・女子25分)、5000m(男子25分)、3000mW(男子30分・女子35分)の制限時間を設ける。制限時間を超えた場合は新たな周回に入れれない。 ⑤納入された参加料は、理由の如何に関わらず返金しない。 ⑥賞状は必ず持ち帰ること。残された賞状は原則として送付しない。 ⑦棒高跳ポールは、自己のポールを持参し使用する事。(競技場宛での送付も可) ⑧競技日程は、一週間前までに「長野マスターズ陸上競技連盟HP」に掲載する。 ⑨申し込みは、規定の申込方法以外は一切認めない。 ⑩個人情報については、大会運営に必要なことのみを使用目的とする。

長野マスタース陸上競技連盟30周年記念
3kmロードレース大会 要項

1. 開催日 平成30年7月15日(日) 午後5時30分スタート
2. 開催地 松本平広域公園陸上競技場及び公園内道路周回コース
3. 主催 長野マスタース陸上競技連盟
4. 種目 3kmレース(競技場出発決勝の1km周回コース×3)
5. 参加資格 陸上競技やロードレースに関心のある35歳以上の方
6. 参加料 1人1,000円
7. 申込方法 参加を希望する方は郵便振込用紙に下記事項を記入して6月15日(金)までに振り込んで下さい。(申込みは5月15日(火)から受付を開始します)
通信欄 氏名・生年月日・生年月日・緊急連絡先(Tel番号)
振込口座 ゆうちょ銀行 振替口座 00510-7-59814
加入者名 矢澤 美代子
※記録証作成のため氏名はできるだけ大きく明確にご記入下さい。
8. 表彰 全員に記録証を授与します。
9. 受付 大会当日、午後2時より競技場玄関ホールにて開始します。
10. その他
 - ・事前に健康診断を受ける等、自己の健康には充分留意し参加してください。
 - ・レース中に発生した疾病等に対し、主催者は応急手当以上の責任は負えません。
 - ・ナンバーカードは主催者が用意し、当日受付で参加賞等と共にお渡しします。
尚、安全ピン等は各自持参して下さい。
 - ・スタート後40分でレースを終了します。

事務局 〒395-0151 飯田市北方317-3 矢澤 美代子
携帯電話 090-2540-8267

研修会・講演 「歩くはすごい！競歩長野」

飯塚義博氏(上伊那支部・M60)

1月の評議員会に併せて研修会として飯塚義博氏による講演が行われました。

<講演要旨・録音より>

現在63歳、上伊那の南箕輪村に住んでおります。マスタース陸上に2016年登録させていただきました。それまでは、県の春季陸上や県選手権大会等一般の競技会に出場。昨年(2017年)の第66回元旦競歩大会に出場し、50歳以上5kmで29分26秒のM60日本記録を樹立いたしました。

出身は上農高校(上伊那農業高校)です。選手として活躍し、カネボウの監督を務めた伊藤国光氏と同期です。自分は、高校2年より伊藤国光氏の走りに影響受け、走れたらいいな、強く

なりたいなと思って陸上はじめました。まともに走れるようになったのは2年生の秋、部員9人から10人でしたが上農の全盛期で都大路に長野県代表として出場5区を走りました。1区の伊藤国光氏が1位、5区22~23位くらいでタスキを受けましたチームとしての最終ゴール成績はだんだんさがり38位でした。TV中継がなくラジオで伊藤選手が1位との放送を聞いて1位で来たらどうしようと思って待っていた思い出があります。

学校卒業後、信英通信工業(現ルビコン)に入社、昨年まで勤めました。現在は充分時間がありますが逆にダメで、仕事やりながらやっていた方が集中してしっかり練習できたよう思います。

国体に三重から7回出場しましたが一番の思い出は地元長野県をやまびこ国体です。強化・強化の連続でした。2ヶ月に1回の強化合宿、山田会長さんや白鳥前会長さんが投てきの強化コーチ、黒岩さんが選手と一緒に。宿舎は、長野は湯谷の湯、松本は崖の湯の雲上閣でした。勤務先の登内社長さんが、県議で体育協会の役職を務めておられ、陸上競技に理解が有り休みも特有で恵まれた中で競技に打ち込むことが出来ました。

長野国体の時、第62回の日本選手権（兼アジア大会予選）で優勝、この時のアジア大会で競歩が初めて採用されました。タイのバンコクではコーチもいなく競歩選手一人で参加しました。20km競歩、朝7時のスタートすでに気温は38℃～39℃、当時は特別な暑さ対策もしないで競技。メダルも欲しかったのですが4位入賞でした。2年後の東京でのアジア陸上では6位に入賞しました。一番残念だったのは1980年のモスクワ五輪を日本がボイコットして幻のオリンピックとなり、代表だった伊藤国光氏や喜多秀喜氏らが目の前で泣いていた姿が気の毒でした。自分は予選3位で候補選手でした。一番の思い出は、1997年の日本選手権の20,000m競歩、国立競技場の400mトラックを50周、本人も何周したかわからない、意識もうろうとした状態のレースでした。

私が県内では初めての競歩日本代表選手でその後ソウルの酒井君、バルセロナの園原君、シドニーの柳沢君、それから小池君、原君、吉沢君、今頑張っている藤沢君、荒井君と続きます。

<講演後の寄稿文>

今、日本陸上界において最も世界に通用する種目として競歩がなっており喜ばしい限りです。またその競歩も長野県出身選手が五輪、世界陸上等に日本代表選手に選出され、メダリストという快挙を成し遂げることもでき「競歩日本は競歩長野」にもなっています。恐縮ですが私自身も当時はまだまだマイナー種目の競歩でしたが県出身選手初(1978年アジア大会)の競歩日本代表選手として選出して頂き、その後も後輩選手が連続して五輪、世界陸上等に選出されています。その背景には、代表選手の顔ぶれを見ますと選手同士の関係が学生時代の先輩、後輩、

それぞれが今、色々な分野で活躍しています。78年から一時期空きましたが、これだけの選手が続いてオリンピック、世界陸上に出ている。なぜ長野県出身者が多いのか、はっきりしたことはわからないが競歩という種目、膝の曲がり、常にどちらかの足がついていなくてはいけない等の独特のルールがあり、先輩のアドバイスが大切に先輩・後輩が皆繋がっている。競技者が少ないので一緒に練習し競技することが多い。本人の努力もあるが先輩のアドバイスがあり、先輩に追いつこう、後輩には負けたくないとお互い切磋琢磨して代表になるまで頑張っている。そんなことが長野県の競歩の強さの秘訣だと思います。

競歩はいまでもマイナー競技で長距離からの転向者多い。自分もそうです。以前は近くの農道で練習していると競歩知らない人を見ると足の具合が悪いのでは見られてしまう時代。人目のある時は走り、人目がなくなると競歩といった練習でした。競歩は、短距離や跳躍等に比べ年齢重ねても長く出来る競技と感じています。



<講演時の写真>

同地域出身などで同じ環境で共に競技しあい、アドバイスするなど、また代表になれた選手への憧れ、競争心と努力、お互いに切磋琢磨して勝ち取った代表だと思っております。まもなく2020年東京五輪も迫り、競歩種目も多くの方々に期待されており、更に好成績が続けられるように競歩競技の先輩として私自身もマスターズ陸上を楽しみながら、これまでの経験を若い競技者にアドバイスしながら競歩を続けてまいりたいと思いますので皆様、今後よろしく願います。

講師 飯塚義博 氏 プロフィール

昭和29年11月25日生 現在63歳 南箕輪村在住

◆M60 5km競歩 日本新記録 29分26秒

(第65回元旦競歩大会 2017年1月1日

明治神宮外苑周回路)

◆第62回日本選手権(昭和53年) 20km競歩優勝
1時間32分47秒5 信英通信工業

◆やまびこ国体(昭和53年) 10,000m競歩 2位

【主な競技歴】

〈高校時代〉

1972年(昭和47年)第23回全国高校駅伝(京都)

上伊那農高 38位

〈国 体〉

1975年 三重国体 10000m競歩 7位

以後 6年間連続出場

〈日本選手権〉

1977年 第61回日本選手権

20000m競歩 6位 ※1

1978年 第62回日本選手権

20km競歩1位(アジア大会予選会)

1979年 第63回日本選手権

20km競歩 4位

1980年 第64回日本選手権

20km競歩 3位(モスクワ予選) ※2

〈国際大会〉

1978年 第8回アジア競技大会 タイ(バンコク)

20km競歩4位

1981年 第4回アジア陸上競技大会(現アジア選手権)

東京 20km競歩 6位

〈マスターズ〉

2017年 第65回元旦競歩大会

50歳以上 5km競歩 6位 29分26秒(日本新)

2018年 第66回元旦競歩大会

50歳以上 5km競歩 3位 28分54秒 ※3

※1) 20,000m競歩はトラック種目、

20km競歩はロード種目

※2) 日本はモスクワ五輪不参加

※3) 自己ベスト更新するも、昨年10月、4

青森の佐々木茂氏に日本記録更新さて
おり NR 申請せず

原田昭一郎氏ご逝去によせて

長野マスターズ陸上競技連盟 顧問 白鳥隆夫

昨年末奥様より「体調がおもわしくないので、来年のマスターズ登録は中止したい」旨の電話をいただきました。「長年お世話になりましたのでお礼を申し上げにお伺いしなくては」と思いつつ、お会いしないままお別れしたことを悔いています。

原田さんから「思っていたって実行できなければ思わないと同じだよ」と叱られそうです。事務局をお預かりした当時、我が家から峠を越えれば車で20分程で原田さん宅です。何回となく相談にのっていただくためにお伺いしました。その都度奥様を交えていろいろ教えていただいたことがついこの間の事のように思い出されます。

長野マスターズ陸上競技連盟発足直後から10

年間の長きにわたり専務理事を、続いて8年間副会長として連盟を支えてくださいました。それぞれの任務を遂行しながら、パソコン未発達の時代でしたので、大会の賞状書きや各種栄章書きは原田さんの達筆で書かれています。

競技面でもすばらしい実績を残しておいでになります。県記録の1000m・2000mの短距離のほか砲丸投げでも多くの年代で原田さんの名前が見られます。自宅にトレーニング場を設け常に体力づくりに励んでおいでで、新聞でもその様子が報道されたことがあります。

原田さん 今後とも長野マスターズ陸上競技連盟発展のために、見守りくださいますようお願い致します。

弔 辞

長野マスターズ陸上競技連盟 会長 山田榮一郎

原田昭一郎先輩の告別式が1月8日にありました。奇しくも、故田中秀雄会長、小口正行副会長、故伴野慎一郎理事長と共に、専務理事の原田先輩が創設された本連盟は今年 設立三十年となる節目になりました。

私がマスターズ陸上に加入させて頂いたのは五十代半ばであり、先輩は専務理事という要職にありながら、短距離界では11のナンバーカードを付け、そのパワフルな疾走姿は、正に韋駄天でありました。今でこそ、100m M60長野県記録は12秒28ですが、当時先輩は12秒79で走り、M65の200m 27秒68の記録に至っては23年間、現在も長野県記録として燦然と耀いております。

先輩のレースを拝見したとき、力強い腕振りと、腰高な大きなストライドでゴールに向かってばく進する姿は、中年組に青年が紛れ込んだようにも見えました。

人は誰しも加齢により筋力が低下していくのが常ですが、その常識を覆すような力強い身体はどのようにして得られたのでしょうか、私がかねてから不思議に思っておりました。

その謎を解く情報が、2004年6月22日信濃毎日新聞の朝刊に写真入りで掲載されており、マスターズ陸上県内参加者「工夫の鍛錬 挑む日本記録」で知りました。その内容は「原田さんの自慢は自宅にあるトレーニングルーム。車1台分の車庫に、所狭しとトレーニング器具が並ぶ。エアロバイク、腹筋台のほか、太めのバネをいくつも利用し、自分に合った重さで腕や脚を鍛

える専用の手作りマシンがあり、これまでの好記録は全てこのマシンによって生み出された。病院のリハビリの先生にも褒められている云々…」とありました。

また先輩が専門外である砲丸投M60でも10m60の記録を残しました。その強さに、投てきを自認する私は記録更新の意欲さえも無くしました。

先輩は本連盟創立から十年間、専務理事という多忙な要職に就かれ、その後も副会長を八年間務められるなど、本連盟史の半分以上となる長きに亘り尽力されました。また、自ら競技をするだけでなく、地元の小中学生を対象とした少年陸上クラブを主宰され、教え子を各種の競技会に派遣し、好成績挙げるなど未来の競技者育成という貴重なお仕事もなされました。

ご遺族のお話では卒寿を目前にして、介護生活も殆どなく俄に逝かれたとのこと、我がマスターズ陸上の標榜する生涯現役の姿をも貫かれました。

今ここに本連盟の組織づくりだけでなく、素晴らしい競技力をも残してくれた原田大先輩を亡くし痛恨の極みです。先輩の遺された意志を引き継ぎ、本連盟を更に発展させることが遺された我々の努めであり、恩返しと信じております。

最後になりましたが原田先輩のご功績に感謝するとともに、心よりご冥福をお祈り申し上げます。

合 掌

編 集 後 記

4月から5月にかけて早朝ランニングの折、各地区で消防団のポンプ操法大会に向けての練習風景に出会います。中には夜間も練習している分団があります。日々仕事をしながらの取組み大変なことと思います。大会結果は、メンバーが入れ替わっても、継続して好成績を収めている分団が多いようです。先輩の実績、先輩から

後輩へのアドバイスが脈々と伝統となっているようです。会報に掲載いたしました飯塚様の研修講演にあります「競歩日本は競歩長野」に通じることと思いました。

今号は、昨年末の発行予定が遅れました、黒岩広報委員長様の体調不良による辞任により臨時に原英充が担当いたしました。